

# 編集委員会便り

本号の特集は「発電技術の最近の動向」である。これは本誌Vol.18, No.1の特集「ガスタービン・コンバインドプラント」と相補的な内容となっている。あわせてご覧いただければより広範囲なエネルギーシステムまたは発電システムの高性能化についての動向が伺えるようになっている。

燃料の持つエネルギーをいかに高効率に仕事や電気に変換するかは各種原動機の発明以来の目標であり、要素の高温・高圧化とともに各要素の使用温度レベルを組み合わせたコンバインドサイクルの構成が一段と高効率化を促進してきた経過がある。このような動向

の駆動原理は熱力学の法則から帰結されるものである。重要な技術動向が、基礎的な熱力学の学理と密接に結びついているところが興味深い。

特集は編集委員会で企画されるが、今回とくにこの分野に関連の深い編集委員の武藤昭一（東京電力）、小清水保（関西電力）、森建二（川崎重工）、高柳幹男（東芝）、の方々にご助力をいただいた。また、ご多忙の中ご執筆いただいた著者の方々にも謝意を表したい。

高城敏美

（大阪大学大学院工学研究科教授）

## 協賛行事ごあんない

## 「第4回新エネルギー・システム国際会議」について

(The 4th International Conference on New Energy Systems and Conversions(略称: NESC'99))

〔主催〕新エネルギー関連学会連合会, NESC'99組織委員会, 大阪大学

〔期間〕平成11年6月27日(日)~30日(水)

〔会場〕大阪大学コンベンションセンター

〔趣旨〕新エネルギーの開発と利用は、資源・エネルギー・環境問題の一つの解決策として世界的に取り組まれている課題であります。最近の新エネルギーシステムは、地球規模の環境問題を視野に入れ、各種エネルギー源とその変換装置群をエネルギー輸送過程を含むリサイクルシステムとして統合するグローバルネットワークの方向へ向かっています。このような状況の下で、本国際会議を開催し、この分野で研究活動が活発に行なわれているわが国をはじめ世界の研究・技術者が最新の研究成果を報告し、討議し、今後の発展の方向を模索することは極めて意義のあることと思われまます。

〔主要テーマ〕

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 各国の新エネルギー・システムの開発動向 | 4. 燃料電池                 |
| 2. 水素エネルギーシステム         | 5. 従来のエネルギーシステムの改良      |
| 3. 再生可能エネルギーシステム       | 6. エネルギーシステムの経済性と環境への影響 |

〔問い合わせ先〕〒565-0871 吹田市山田丘2-1,

大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻 辻毅一郎

電話: 06-6879-7709 FAX: 06-6879-7713